



早稲田大学 日本語教育研究センター
Center For Japanese Language, Waseda University

CJL NEWS

日本語センターニュース

Center For Japanese Language, Waseda University

vol.31
2011.Aug



Contents

日本語センターニュース
Vol.31 2011.Aug

所長のことば 1

今、あなたはどのように日本語をまなびますか

—自律した個人としてのカリキュラム・デザイン 所長 細川英雄

私と研究 2

習得と政策の連携をめざして

教授 宮崎里司

課外活動 3

もっと知りたい！歌舞伎

梁 芸嘉

修了生のことば 4

日本で過ごした1年間

スピチャダー アヌラカモンクル

日本での人生行路の一段階

ギャレット ノリス

人物往来 6

新任のことば

助手：李 錦淑

事務スタッフ：中尾弘美、太田幸子、鈴木尚子、石塚禎子

退任のことば

事務スタッフ：保坂裕子、中井麻貴

修了生のみなさんへ 9



所長のことば



しよちよう ほそかわ ひてお
所長 細川 英雄

いま、あなたはどのように日本語をまなびますか —自律した個人としてのカリキュラム・デザイン

げんざい わせ だいがく にほんご
現在、早稲田大学日本語センターでは、80カ国以上、約1200人の留学生
にほんご
が日本語をまなんでいます（2011年3月現在）。これほどさまざまなところから、これだけ大勢の人
たちがあつまって日本語をまなんでいるところは、せかいじゅう
世界中でもそんなに多くはないでしょう。

では、この日本語センターで、あなたはどのように日本語をまなぶことができるのでしょうか。

まず、プレACEMENTテストJ-CATの判定のあと、学期はじめのアカデミック・オリエンテーション
に参加して、よく説明をききます。それぞれのレベルにあった、いろいろなクラスがたくさん用意され
ていますし、それぞれのコースやクラスは、ひとつひとつコンセプトが異なりますから、ガイダンス期
間ではよく注意してクラスに参加し、自分にあった科目をあなた自身がえらばなければなりません。

このとき、一番大切なことは、何でしょうか。

それは、あたりまえのことなのですが、このクラスをえらぶのは、あなた自身だということです。

せっかく日本語をまなぶのに、あたえられたことをきめられたようにまなぶのでは意味がありません。
ひとつひとつのクラスの内容をよく見て、なぜそのクラスをとるのかをしっかりとかがえてほしいとお
もいます。

まなびのスタイルには人それぞれの違いがあり、どれが正しいとか正しくないとかいうことはだれ
もきめられません。あるのは、自分のクラスをえらぶ、あなた自身の責任です。つまり、あなたのカリ
キュラムは、あなた自身がデザインするということなのです。

このあなたの学習への判断・意思を日本語センターは全面的に尊重するということです。

日本語センターは、あなたに自律した個人としてのカリキュラム・デザインを期待していますし、こ
の日本語センターの日本語カリキュラムは、その責任を果たす、自律した個人としてのあなたによって
支えられています。

こうしたあなた自身の学習をたすける方法の一つとして、日本語センターでは、2011年度から留学
生日本語自律学習支援システムを立ち上げました。大学院日本語教育研究科の院生が、あなたの相談
に定期的に応じます。ぜひこのシステムを活用し、日本語学習に役立ててください。

日本語センターは、あなたの日本語学習計画を応援しています。



習得と政策の連携をめざして

私は、現在、日本語教育研究センターでの授業を担当していませんが、センターで学ぶ留学生の皆さんが抱えることばの問題同様、日本で生活する外国人の方々が直面する問題全般を研究課題としています。

私の主な研究領域は、「第二言語習得」です。オーストラリアのメルボルンにある、モナシュ大学で応用言語学の博士号を取得した際の学位論文も、接触場面の意味交渉という内容でした。昨年までは、日本語教育研究センター内に設置されていた、「遠隔教育研究会」や「アイカメラ研究会」でe-learningや、眼球運動に伴う文字や場面処理のプロセス研究を行っていました。それに加え、東京都墨田区とは、早稲田大学の、産学官連携プロジェクトの関連で、2002年度から包括協定を締結している関係で、同区でも研究室を運営しています。そこでの活動として、2006年度と07年度には、文化庁の委嘱事業として、「地域日本語教育支援事業（日本語教室設置運営）」「外国人生徒学習の会」を設置運営し、教科学習に対応する日本語学習支援を行いました。続く2008年度にも、「すみだ日本語教育支援の会」を設置し、区内にある特別養護老人ホームで働く、外国人介護ヘルパーへの日本語教育の支援を始めました。近年、EPA（経済連携協定）の就労・就学コースで来日した、インドネシア・フィリピンの看護師・介護福祉士候補者への日本語教育支援が議論されるようになってきましたが、日本語能力や日本の医療事情に不案内な人材に対し国家資格取得という要件を課しておきながら、確実に取得してもらおうプロセスが欠如しているのは人材の使い捨てそのものだと考えています。

さらに、墨田区にある公立夜間中学に在籍する外国人生徒の日本語支援もしていますが、学齢超過生徒（15-17歳）の入学や、中国帰国者とその家族、在日韓国・朝鮮人、ニューカマー（新渡日外国人）などが学ぶ夜間中学の問題は決して小さくありません。その一つの活動として、中川正春前文科省副大臣が主宰した政策懇談会において、義務教育課程未修了者のため、各県に1校ずつ、夜間中学を設立するよう働きかけています。

このように、私の研究は、言語習得とあわせ、言語政策にもつながっています。この背景には、急速な社会変容の中で、多文化共生社会に即した専門性の多様化に対応しておらず、日本語教師の専門的知見や実践力の向上が求められるようになってきたことが原因と考えています。

外国人登録者数は1969年以降年々増え、2008年末で約222万人となっていますが、国内の日本語学習者は約17万弱と10%以下の状況です。外国人登録者と日本語学習者の増加率は、比例していないにもかかわらず、日本語教師は、依然、教育現場の学習者だけに関心を寄せる傾向にあるのが残念です。入国後の公的な日本語教育は、義務教育を除くとほとんどなく、長期滞在しても日本語の読み書きができない外国人を、半ば放置している現状です。このような、公的な日本語教育が不十分である状況の中、しっかりとした日本語教育政策が求められるでしょう。



リャン ユインジャ ちゅうごく
梁 芸嘉 (中国)

もっと知りたい！歌舞伎

私は、今年の4月に早稲田大学に来たばかりで、日本のことがもっと分かるように、森下雅子先生の授業「日本の伝統文化を学ぼう！」を取りました。とても楽しい授業です。この授業を通じて日本の伝統文化を体験し、日本の良さを知りました。

その中で、日本の伝統芸能代表の一つ「歌舞伎」が紹介されました。

歌舞伎の元祖は出雲の巫女だった阿国だと言われています。

江戸時代には、風俗を乱すという理由ですべての役を男が演じると聞き、驚きました。女性役まで男が演じるとはとても不思議だと思います。男性が女性の振る舞い・女性らしさをどのように表現するか、興味深いです。

歌舞伎を勉強して頭に浮かんだのは、宝塚歌劇です。宝塚歌劇では、すべての役を女性が演じています。この二つの共通点は異性によって演じられる役があるということです。

古い歴史のある歌舞伎に対して20世紀初めに創立された宝塚歌劇は、「女性でもできる」という意味を持つ存在だと思います。

今回は、歌舞伎を自分の目で見るために国立劇場に行って「義経千本桜」を鑑賞しました。

開演前に歌舞伎のみかたについて解説してくれましたので、外国人の私にとって本当に助かりました。解説者は舞台の配置（花道、黒御簾、周り舞台…）、化粧、黒子、女性役、浄瑠璃、三味線、義経千本桜の粗筋等を紹介してくれました。

やはり、歌舞伎の言葉は難しいです。電子掲示板に字幕が出ましたが、依然として分からない言葉がたくさんあります。

今回、歌舞伎を鑑賞して特に印象に残ったことはいくつかあります。

まず、女性を演じた役者たちは皆、あのような綺麗な着物を着たまま優雅に振舞っていたことです。見事に女性らしさを演出し、とても感心しました。

また、時々動きが遅くなる場所もあり、なんだかわざと動作を少し止めている気がしました。これは、観客の注目を集め、強く印象づけるねらいがあるそうです。

他に、全身黒い服装をする黒子は、舞台上で役者の着替えを手伝ったり、小道具の世話をしたり、主役の後ろに体をかがめたりしていました。とてもしんどいお仕事のようなですね。

いまどきの日本は「若者歌舞伎離れ」という問題を抱えています。どうやって歌舞伎の伝統芸能を若者に伝えていくか、頭を悩まされますね。

修了生のことば

スピチャダー アヌラカモンクル (タイ) ANURAKAMONKUL, Supichada

日本で過ごした1年間

日本に留学に来てからもうすぐ1年が経とうとしています。最初は長い生活になるだろうと思っていましたが、気がつけばあっという間でした。それだけこちらの生活が私にとって、とても幸せなものであったという事でしょう。正直、こちらでの留学が決まった時、最初は不安だらけでした。ずっと日本での生活を慣れていたので、母国とは違う言語、環境、文化、生活、人々の様々な価値観の中の生活となると、たとえ言語をしっかりと勉強してきたとしても緊張の連続でした。しかし、その不安はすぐに消え去りました。母国の授業や教科書では習う事が出来ない日本の魅力の数々、人々との出会いなどの新しい日本の魅力を発見するたび、不安よりわくわくを感じたからです。特に日本の文化と習慣、町並みと人々にはとても惹かれました。穏やかできれいな町並み、実際に見たことがなかった日本人の生活習慣、近くで見たり体験したりした伝統文化など、写真や映像を見るだけではきっとこの感動は得られなかったでしょう。



こちらは栃木県の日光江戸村に行った時の写真です。今まで写真とかでしか見たことがなかったその場所に、実際に立つことが出来た時の、子供の頃に帰ったような感動は今でもはっきりと覚えています。私にとって日本の文化はとても清らかで美しく、心が洗われるようでした。それに、こちらの人々もすごく好きになりました。毎日とても忙しい生活を送っている日本人ですが、マナーの良さと親切さ、何に対しても積極的に精一杯やり抜く姿と真面目さには、見習うべき事がたくさんありました。これこそが日本発展の秘密のひとつだと改めて実感しました。私はそんな忙しくても穏やかで、家族と過ごす日本の家庭を眺めるのがなによりも好きでした。また、個人的には将来、日本人とお仕事をしたいと思っているので、実際に日本人の生活を身近で触れたのは楽しく、参考になりました。

こちらでの勉強もとても充実でした。母国では学んだ日本語を使う機会がなく、なかなか身につけなかったのですが、こちらでは大学でも私生活でも毎日日本語を使いますので、とても勉強になり、言語は毎日使ってこそ上達するものだと思えました。おかげで以前より日本語が上手くなり、自然に日本語コミュニケーションも取れるようになりました。授業も言語勉強だけではなく、活動を通したたくさんの伝統文化も実際に体験する事もできました。留学していなければ、なかなか得られない経験でした。また、日本人だけではなく、たくさんの外国人留學生とお友達にもなれました。世界中から来た人達と触れ合う事で、色々な文化と価値観を知り、視野がさらに広がり、自分も前より成長したと思います。

本当に幸せな時が過ぎるのは早いものです。ここで得た知識、経験、知り合った人々は私にとって、どれもかけがえのない素敵な思い出です。さらに日本が大好きになりました。これからもずっと日本語の勉強を続けて行くと共に、日本の魅力を伝えて行きたいと思っています。



ギャレット ノリス (アメリカ) NORRIS, Garrett

日本での人生行路の一段階

まずは、早稲田大学で勉強させてくれて、ありがとうございます！特に、CJLの人達に対してありがたいと言いたい。何回も、私に何か問題があっても、CJLの皆さんが手伝ってくれて、本当に感謝している。早稲田で勉強するにつれて、私に色々な問題をあったことを、皆さんは良く知っていると思う。いっぱい問題があったが、私の日本での経験は辛かった訳では絶対ない。そういう問題も良い経験だと思いが、それよりも、あり得ないくらい素晴らしい留学経験ができた。その事を表すために、私の感想を伝えたいと思う。

日本に来る前に、日本語が全く話せなくて、日本の文化も分からなかったし、日本に行くことに対して具体的な理由がなかった。なぜ日本に行きたいと思ったのか分からなかったからといって、偶然日本



に来た訳ではない。

振り返ると、それは、運命的な人生行路の一段階と気づいた。以下の思いひとつとっても、日本の良い思い出を懐かしく思い浮かべることができる。ある満月の夜、暗い寺の中で、お香をたきながら座禅をして、お坊さんと共に経を読んだ。雑念を払っていくと、だんだん無心になってきた。そして、明鏡止水の心境になって、平常心で月の光を映すように澄み切った。

日本にいる間に様々な素晴らしい経験をする機会ができた。恩師と友達に会ったり、あちこちきれいな所にもいったりした。つまり、日本の御陰様で私は人生を成長させ、世界も広げることができた。最近、「なぜ私に日本でこんなにすごいチャンスがあったのか」ということをよく考える。つまりそれは、「袖擦り合うも他生の縁」という諺に従って、日本に来たのは私の運命だったからだ。私は前世で日本人だったからかもしれない。日本と縁で結ばれているという気持ちは、アメリカに帰っても、私の心の中にずっと残るだろう。

一期一会





助手 李 錦淑

みなさん、こんにちは。2011年4月から助手として勤務している李錦淑と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。

私は、中国の大学で日本語を専攻し、大学2年生の時に、青森県にある弘前大学に交換留学生として1年間の留学経験をしたことがあります。車1台と人が僅かに通れる細い道、並び立っている林檎の木、弘前市は頭の中で描いていた「経済大国日本」の姿とはまったく違ったものでした。しかし、弘前公園のうつくさくらの花、まなつ真夏のねぶた祭りの躍動感、おいしいリンゴの味と暖かい心を持つ町の人たち、留学生弁論大会で賞を受け、うれしさのあまりホストファミリーと抱き合って涙を流した感動…そのいずれもが私にとって、貴重な財産となり、日本・日本人と絆を結ぶきっかけとなりました。そして、大学を卒業した後は再び日本への留学を決意したのです。

皆さんの中にも、初めは自分が想像していたものとは違った環境に戸惑ったり、慣れない生活や人間関係などに悩んだりする方がいるかもしれません。しかし、そうした苦勞の中にも自分なりの何かを得られるはずでしょう。それは、周りの人たちとの「絆」ではないでしょうか。「絆」を保つことで、今まで経験したことの無い世界が広がり、人生の貴重な財産ともなると思ひます。これからの2年間は、日本語教育研究センターの助手として、留學生生活をサポートしながら、皆さんとの「絆」をぜひ保ち続けてみたいと思ひています。



新任 中尾 弘美

こんにちは。4月より日本語教育研究センターの事務所スタッフの一員になりました中尾弘美です。よろしくお願ひします。

私は、昨年の夏まで大阪に住んでいました。長年住み慣れた土地を離れて全く新しい場所に移るのは相当の覚悟が必要でした。同じ国内でも不安でいっぱいだったのに、みなさんは一人で全く違った文化に飛び込んで来るなんて、すごい勇氣だと感心します。

みなさんが大阪に行った事がないなら、是非おすすめてします。大阪は色々な意味で濃い街ですよ。人情の街なので、人との絡みが楽しいですよ。お店の店員さんも話しているうちに、友達のようになり、「おまけ」なんて事も時々あります。話す機会があれば、年配の男性には「おっちゃん」若い男性には「おにいさん」女性には「おねえさん」と呼びかけてみると、きっと必要以上の会話が楽しめると思ひます。ここで注意ですが、大阪ではどんな年齢でも女性は「おねえさん」と呼ばなければいけません。これは鉄則です。食べ物も安く美味しい物がたくさんありますよ。特に粉物はおすすめです。大阪に遊びに行く予定がある方は美味しいお店おしえますよ！

事務所のスタッフの方達にも大阪弁を伝授中なので大阪弁でお話したい方は事務所に遊びに来ててくださいね。



新任 太田 幸子

6月より日本語教育センター事務所に配属になりました、太田幸子と申します。

別科で学ばれている留学生のみなさんを見ていたら、私自身が1年間ホームステイをしながら、アメリカのカリフォルニア州で高校へ通った当時のことを思い出しました。はるか遠い昔のことですが、異国での高校生活で体験したこと、学んだことは、私自身の貴重な宝物になりました。

アメリカでの留学生活で、特に印象に残っているのは、相手の話していることを理解しようと、いつも真剣な硬い表情でいた私に、家族や友人から「Sachiko, Smile!」と、よく声をかけられたことです。それ以来、いつも「笑顔」を心掛けるようになりました。2児の母親となった今、子どもに対しても、常に「笑顔」で接するように心掛けています。

みなさんのキラキラとした青春の1年間、どうぞ、早稲田でたくさんの思い出をつくってください。楽しいことばかりでなく、時には、カルチャーショックや辛いこともあるかも知れません。でも、留学生活を終えて振り返ってみると、それらの思い出も含めて、早稲田で過ごした時間は、きっと大切な宝物のように感じられるのではないかと思います。

みなさんが充実した学生生活を送ることができるように、たくさんの輝く思い出をつくることができるように、精一杯、事務所でサポートしていきたいと思っています。日本語センターの「お母さん」と思っ、いつでも気軽に声を掛けてくださいね。



新任 鈴木 尚子

皆さん、こんにちは(*^_^*)

2011年7月から日本語教育研究科のスタッフの一員となりました鈴木尚子と申します。どうぞよろしくお願いたします。

私は、大学を卒業後、神奈川県私立中学校・高等学校で職員として働いていました。その後、大学図書館・入試広報の業務に携わり、早稲田大学の日研に参りました。学校事務に携わっていて感じていることは、雰囲気作り・環

境作りです。

学生や先生方と一緒に、より学びやすい環境を提供し、共に成長していきたいと思っています。

さて、先日、指摘されたことがあります…

『尚子さんの日本語は、方言ですか？』

ちょっとショックでした。

※『～します↑』（例；一つ番号ずらします？）

私は『～しましょうか↑』（例；一つ番号をずらしましょうか？）と言うニュアンスで、使用していました。

いつの間にか、話し方にクセがついていました。日研の一員として、今一度、日本語を見直して、日本語を大切にしたいと思います。

みなさん一緒にがんばりましょうねえ。



新任 石塚 禎子

7月から、日本語教育研究センターの事務所で勤務しております石塚と申します。

中国で初めて、丁寧な感謝のことば「谢谢您」を使ったとき、現地の方がとても驚いて、満面の笑みで再会！と熱く手をふってくださったことが、今でも忘れられない嬉しいことばの記憶です。

걱정하지 마세요. 日本語では「心配しないでください」という意味のことばで、韓国の皆さんにはとても馴染みの深いものだと思えます。困ったことがあっても、まず「心配しないでくださいね」と笑顔でいわれただけで、とても心強く感じます。何度も何度も、この言葉を聞く機会がありましたが、聞くたびに相手の方の温かさを感じて、とても嬉しくなる音色と言葉です。

皆さんにも、きっと大好きな日本のことばがあると思います。事務所にいらしたら、是非その言葉を教えてください。嬉しいことばの記憶を、是非共有しましょう！

皆さんが安心して留学生活を送れますよう、陰ながらサポートさせて頂けたらと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



退任 保坂 裕子

7年間お世話になった日本語センターから、6月1日に総長室募金課という職場へ異動しました。日本語センターと違って、学生さんや先生方の出入りがないので、最初の頃は少し寂しかったです。

私が、7年前に異動してきた時にこのニュースへ着任のご挨拶として書いた原稿のタイトルは、「スヌーピーが大好きです！」でしたが、今でも大好きです。あれから、もう7年もたってしまったとは思えないくらい、アツという

間の7年でした。日本語センターでは、日本語の授業に使う教材を見て、「なんか、楽しそうなものを使って授業をするんだな。」って感じたことを思い出します。教材が絵本のような物やおままごのような物、ぬいぐるみだったからです。初級クラスの授業には、そのような教材を使って授業をすることがあるとお聞きしました。留学生の皆さんの中には、そのような教材で授業を受けた学生さんもいるのではないのでしょうか。

日本語教育研究科での思い出はたくさんありますが、中でも今年3月の卒業式が、東日本大震災の影響で中止になってしまい、事務所で学位記をお渡ししたことです。例年なら袴や民族衣装などで学位授与式に出ていた学生さんも、今年はちょっと正装している程度でした。でも、皆さんとても明るく学位記を受け取っていました。入学式も中止になってしまいましたから、今年3月の卒業生の皆さんと4月入学の新入生の皆さんは、本当に残念でしたね。

私は7年間、入学式・卒業式にかかわってきましたし、私にとっても異動の年だったので、今年はこの心に残る卒・入学の年になりました。

最後になりましたが、今後の日本語センターと研究科の発展を、陰ながら応援しています。



退任 なか い ま き 中井 麻貴

みなさん、こんにちは。ちかごろ にほん あつ ひ つづ近頃日本は暑い日が続いていますが、いかがお過ごしですか？この度、日本語センタースタッフを退職した中井麻貴と申します。じんせい ろくぶん いち にほんご とも す人生の六分の一をこの日本語センターと共に過ごしたことになるのですが、改めて振り返ってみると、ながも 短くも 感じられるから 不思議長くも短くも感じられるから不思議ですね。これまでスタッフとして多くの別科生のみなさんと接し、たくさん の 刺激 を 受け 勉強 の 毎日たくさんの刺激を受け、勉強の毎日でした。そんなみなさんに、そして日本語センターに、いま感謝の気持ちでいっぱいです。

みなさんにはこれまで、いろいろ くに りゅうがくせい色々な国の留学生や、にほん がくせい日本の学生との出会いがあったと思います。でも、わか かなら別れも必ずやってきます。わか別れはとても淋しいものですが、わたし す私の好きなある作家が言っていました。「大人になる楽しみは、おとな たの昔の友に会うことだ」と。誰も年を重ねて、あ出会いと別れを繰り返します。みなさんにこれからやってくる出会いや別れも、今後 の 人生今後の人生において、きっと 大きな 意味 を 持つ ものきっと大きな意味を持つものになると信じています。

最後に、日本語センターのスタッフにとって、みなさん が げんき に じゅうじつみなさんが元気に、まいにち おく充実した毎日を送ることは、なに何より嬉しいことです。もしかしたら、たの楽しいことばかりではないのかもしれませんが、すべての 出来事すべての出来事には必ず意味があります。これからも、みなさん が えがおみなさんが笑顔で毎日を送ることができるよう……かげ陰ながら応援しています。

しゅうりょうせい 修了生のみなさんへ

しゅうりょう
修了おめでとうございます。教職員一同心よりお祝い申し上げます。

わ せ だ と も だ ち
早稲田で友達はたくさんできましたか？いろいろな所へ旅行にもでかけましたか？べつ 科 に ほん 語別科日本語専修課程での日々はいかがでしたか？しゅく だい宿題に発表に、たい へん大変なことも多かったと思います。別科で過ごした時間はみなさんの長い人生を考えれば、いち ねんたった「一年」という短い時間だったかもしれません。でもこの「一年」が今後の人生の大きな糧になり、そ してそしていつでも思い返したくなる「一年」であることを祈っています。みなさんの今後のご活躍を楽しみにしています。またいつかお会いしましょう！

From CJL





日本語センターニュース 第31号
2011年8月30日発行

発行

早稲田大学日本語教育研究センター
CENTER FOR JAPANESE LANGUAGE
WASEDA UNIVERSITY

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-7-14
1-7-14, Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050
TEL : 03-5273-3142 FAX : 03-3203-7672
E-mail : cjl@list.waseda.jp
URL : <http://www.waseda.jp/cjl>